



©Mari Kusakari

大木 麻理

第7回

オルガニストの 好きな街

オルガンがある場所に自らが出演して演奏するオルガニストにとって、昔も今も「旅」は人生の一部です。かのJ・S・バッハの人生も旅の連続で、先輩音楽家のD・ブクステフーデの演奏や、彼が奏でる名器を聴くために、約400kmの道のりを歩いて旅したという逸話はとても有名です。

自由に旅をすることが難しい今、少しでも旅行気分を味わっていたくべく、今回の連載では私が大好きなリューベックを皆さまにご紹介したいと思います。

私が最初に留学した場所がリューベックで、前述したバッハが徒歩で訪れた街です。川崎市の友好都市でもあるリューベックはバルト海に面する北ドイツを代表する都市であり、かつてはハンザ同盟の盟主として繁栄しました。



リューベック旧市街地の顔「ホルステン門」。この先に広がる街を守るような威厳あふるまい!

現在は旧市街地がユネスコ世界文化遺産に登録されていて、今もなおバルト海の女王と称されるほどの、中世の面影を感じる美しい街並み特徴です。運河に囲まれた旧市街地は、端から端へゆくり歩いても半日あれば十分に楽しめるサイズ感で、まさに「おとぎ話」の世界がそこにあるような街です。

リューベックには大きな教会がいくつもありますが、ハンザ同盟の時代から、実はそれぞれの教会に個々の役割がある



毎日お散歩しても全く飽きることない美しすぎる街並み。

りました。例えば旧市街地の中心部にあり、ブクステフーデが活躍していた聖マリア教会は議員と商人のための教会、現在でも歴史的名器を保有する聖ヤコビ教会は船乗りのための教会、など職業によって属する教会が異なっていたようです。

リューベックは素敵な街並み、芸術、歴史、それらすべてが揃う街だと思っますが、もう一つ忘れてはいけないのが「食」です。北ドイツはヨーロッパの中で



聖マリア教会は第二次世界大戦で甚大な被害を受けました。この鐘は教会の塔が崩落したときに落下したもので、戦争被害者の追悼のために捧げられています。



ブラウベルガーの看板。毎日新鮮なビールがお店の中で製造されています。ああああ、早く再訪したいです。

も美味しいお魚が入る場所で、日本人の私でも何も苦勞することなく過ごすことができました。そして忘れてはいけないのがビール! 留学するまではビールの美味しさがわからなかった私です

が、「ブラウベルガー」が、「ブラウベル」という醸造所兼レストランのビールを飲んでから、すっかりビール

が大好きになってしまったという、素晴らしいお店がリューベックにはあります。ご旅行などの際には、必ず、必ず訪れてほしいお店です。このお店のお肉料理も最高です!

リューベックは私にとって第二の故郷のような街です。一日も早く再訪できますように……!